

平成28年度 特別養護老人ホーム事業報告 (期間:平成 28年 4月 ~ 平成 29年 3月末)

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献 の視点	地域との交流	・年3~4回、野瀬地区の自治会と協働で交流会を実施し、親睦を図る。	交流企画の回数	3~4回/年	3回/年	6月に野瀬自治会の地域清掃(草刈り)に参加した。また、8月に野瀬地区の夏祭りに模擬店(アイスクリーム無料配布)を出店させて頂いた。12月には歳末助け合い事業の一環で、野瀬公民館でもちつき大会を開催し、つきたてのお餅をふるまった。
	稼働率の維持・向上	・退去後のベッドコントロールを効率よく行う。 ・ショートステイ利用により、退去後の空床を減らす。 ・ショートステイ新規利用者を確保する。 ・ケアの質を高め、入院者を減少させる。 ・Dr.と看護師より、家族に充分説明を行い、出来る限り施設で医療対応し入院者を減らす。	特養入居・ショートステイの稼働率	入居:98.0% ショート:100% ユニット型特養の 全国平均稼働率: 95.0%	入居:97% ショート:98.6%	稼働率は、長期入居・ショートステイ共に目標値を達成することが出来なかった。原因としては、人員不足によりショートステイの業務引継ぎが上手く進まなかったこと、他施設の新規オープンによる利用希望者の減少、冬季の体調不良者(インフルエンザ)による急なキャンセルが多かったこと等が挙げられる。 30人の新規利用があった。 13名の入院があった。(空床日数:366日) 施設で出来る医療処置(点滴、酸素、経管栄養等)は、出来る限り対応できた。
	収支 の視点					
利用者 の視点	家族勉強会	・ターミナルケアの取り組みについて発表する。	開催件数	2回/年	1回/年	11月にショートステイの家族交流会を実施。その際に支援内容や施設内の事故事例について発表する。ターミナルケアの発表はできず、次年度(H29年5月21日)に開催する予定。
	ショートステイ家族交流会の開催	・施設内での事故事例の発表をする。 ・支援内容の発表をする。				
業務プロセ スの 視点	業務の効率化	・専門委員会をより活発に機能させる。 ・適切な業務分担を図る。 ・記録類の整備とPC入力の移行を推進する。	委員会の活動実績 回数報告 退社時間の遅延	1回/1~2か月 勤務通りに退社出 来しているかどうか	1回/1~2か月 ほぼ変化なし	毎月1回、2か月に1回は開催できた。行事委員会については、今年度で一旦解散となる。 記録類の入力時間を短縮するためタブレットを導入したが、上手く作動しないこともあり、いまひとつ軌道に乗りきれておらず、退社時間の遅延に関して大きな変化はなかった。場合により、タブレットを解約する。 業務分担はまだまだ改善できる余地はある。適正な人員配置と合わせて見ていく必要がある。
学習と成長 の視点	現任研修の充実	・各必須研修の実施と役職やキャリアに応じた研修計画を作成する。内部研修・外部研修の計画も併せて作成する。 ※必要に応じて、外部講師への依頼も検討。 ・研修科目に応じてそれに準ずる委員会が担当を受け持つ。 ・研修委員が計画通り進んでいるか確認を行う。 ・介護主任となれる人材を育成する。	現任研修の開催件数	12回/年	13回/年	内部・外部研修とも研修実施内容は前年度より充実したものができ、法定研修は確実に実施できた。嘱託主治医の平田Dr.や協力歯科医院の大川Dr.による研修会も実施できた。 実施できたが、内容をもう少し充実させていきたい。 勤務や外部研修の日程により、決められた月には実施できていない。 アドバイザーを中心にチームマネジメントに関する研修に参加を促し、実施できた。